

— 告 告 —



久保田 篤志 (くぼた あつし)
金沢工業大学大学院工学研究科
バイオ・化学専攻
博士前期課程一年
愛知県立岡崎北高等学校出身

実験で成功するのは半分ぐらい。 壁を乗り越える楽しさを知った。

一人暮らしはしたいが、親には負担や心配をかけたくない。久保田さんは、第一志望の国立大学のある町の近くの私立大学を探していたときに金沢工大を知った。化学科があること、特別奨学生制度があること、家族で下見に来たので安心してもらえること。国立には入れなかったけれど、この大学でトップになろうと決めた。

「有機化学はこれから合成するものばかりで、終着点が果てしない。今は卒業研究の『 π 共役系分子を溶媒抽出用配位子として用いるための基礎的研究』をさらに進めています。 π 共役系分子は電気的に特性を変化させることが可能な有機化合物で、効率的な金属リサイクルを可能とするものです。学部での実験は成功したの今は三回

連続で失敗したり、その繰り返し。壁ばかりだけど、それを乗り越える楽しさがわかってきました。」

指導する坂本宗明准教授の専門は材料化学、有機合成、さらに工学教育の面では海外の教育機関との異分野・異文化連携を推進している。機械から化学へと分野を広げてきた異色の先生である。

「生活環境研究所に所属する坂本研では、学生の意見を求めて討論することが多いんですよ。しかも課題のレベルが高く、ほとん中はモチベーションになっけています。どんどん厳しいことを言ってくれる最高の先生に出会うことができ、それに応えなければと。」
久保田さんは入学当初から大学院進学を考えていたのだが、海外で研究活動という夢が膨らんでいった。数ヶ国の大学院を調べ、研究と学費の面からドイツと。ネットを大学を探し、メールのやりとりをして、三年のときに一週

間、エアランゲンという町のFAU (フリードリヒ・アレクサンダー大学)を訪ねたのだ。

「授業は英語主体の大学で、研究室や入学担当の先生に話を聞いてきました。いずれは留学したいと。そして、坂本先生の勧めもあって、ラーニングエクスペリエンスというプロジェクトで二週間、インドネシアに。そのときは、英語で化学について話す力が不足していると痛感。二つの海外経験は自分を見つめ直す機会となり、多くの視野を広めてくれました。」

久保田さんは、学友会の学生健康委員会や献血活動の委員長を務め、十六年連続、年間献血者総数一〇〇〇人という記録を更新した。やるときはやり切るという久保田さん。異国の学生街で議論する逞しい姿が浮かんできた。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七十一
電話番号 〇七六二二四八二〇〇

KIT
キャンパス
レポート
文・出島二郎
マーケティングプランナー